

令和7年度

自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	3606	学校名	加茂高等学校（定時制）
------	------	-----	-------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制高校として 多文化共生を通したコミュニケーションスキルや社会性の修得、一人一人に応じたきめ細かな教育活動を通して 地域と連携し社会で自立した人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。 1 目的に向かって精一杯努力し、チャレンジする生徒 2 多文化共生社会の一員として適応できる、自律心と協調性を備えた生徒 3 集団をよりよい方向へ導く調整力や発信力を備え、進路を切り開く力を身に付けた生徒	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・目標に向かって精いっぱい努力し、チャレンジする生徒 ・多文化共生社会の一員として適応できる、自律心と協調性を備えた生徒 ・集団をよりよい方向へ導く調整力や発信力を備え、進路を切り開く力を身に付けた生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・少人数授業、ティームティーチング授業、ICTの活用等をととして、学びなおし授業を丁寧に実施するとともに、漢字・日本語能力及び計算能力の定着を図りながら、生徒の特性に応じて、検定合格等に挑戦させる、きめ細かな指導の推進 ・外国人生徒の日本語支援にあたる職員やスクールカウンセラー等の相談員、外部の専門機関等による支援体制の充実を図りながら、個人懇談、保護者懇談をきめ細かく実施するとともに、学校行事や部活動の活性化を推進 ・グループ対抗校内日本語プレゼンテーション大会を通してコミュニケーション能力や発信力を育成するとともに、外部機関と連携した進路ガイダンス、企業訪問、卒業生から下級生への助言等、情報収集の機会を充実させ発達段階に合わせたキャリア教育を推進
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・自らの可能性を信じて挑戦したいという向上心を持ち、目標を見つけて継続して努力したいという意欲のある生徒 ・他者の良さを認めながら、人とつながって学校生活を送りたいと願う生徒 ・学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加し、充実した学校生活を築いていこうという意欲のある生徒
学校の抱える課題	・国語・数学を中心に基礎学力の定着が不十分である。また、授業規律について継続的な支援・指導を必要とする生徒が一定数いる。 ・学校の進路指導の取り組みや行事について保護者への周知徹底が不十分な面がある。 ・校内での問題行動は少なくなってきたが、校外の問題や家庭での問題が原因で学校生活に支障が出る生徒が増えている。 ・部活動や学校行事を生徒主体で行うことができていない。多国籍の生徒間で、日本語能力の差などが要因となりお互いが協力し行事運営することがなかなか難しい。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	授業規律の確立と基礎学力の習得と定着
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立とバランスの取れた人間性の育成
	進路指導	社会に適応できる能力の計画的な育成と進路希望の実現
	学校経営	地域社会に開かれ、信頼される学校づくりの推進

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	①少人数授業やティームティーチング授業を実施し、生徒の理解度や学習進度に応じた授業を行います。	施策Ⅳ-23	・学校評価アンケートや授業アンケートで該当項目について良い評価が70％を達成できたか。 ・校内漢字検定や数学基礎テストを実施し、達成度を確認する	①学校評価アンケートの少人数授業や習熟度別授業に関する項目において、生徒95.2％・保護者95.7％が肯定的な回答であった。 ②校内漢字検定、数学基礎力テストを年2回ずつ実施し、個々の能力に応じた日本語能力、計算能力の向上に努めた。 ③授業評価アンケートの「先生の説明や板書が分かりやすい」の項目において91.8％が肯定的な回答であり、昨年度より3ポイント上昇した。 ④放課後や補充での支援を実施した。公共の授業では教科書を翻訳したものを活用した。	B	学校評価アンケートでは、学習に関する項目において生徒・保護者ともに90％以上が肯定的な回答を示しており、今後も現在の取り組みを継続していきたい。また、授業評価アンケートにおいても肯定的な意見が多く、すべての教科において基礎・基本の定着を図るための工夫がなされていると考えられる。日本語能力試験（JLPT）や日本語漢字能力検定を受験させて資格を取得させたいが、受験費用が大きな負担となっており、実施に向けた課題となっている。	B
	②総合的な探究の時間を活用し、日本語能力や計算能力を向上させます。	施策Ⅱ-8		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		・スペシャルサポート事業によるSCの相談会を追加で実施し、より多くの生徒の話を聞くことができた。 ・保健講話(6/2)、闇バイト・薬物・情報モラル講話(7/4)、SOSの出し方に関する教育(7/18)を実施し、夏季休業中に起こると危惧される問題に備えた。 ・三者懇談会時には、学校評価アンケートを実施し、保護者、、生徒共に全ての項目で75％以上の支持が頂けた。 ・日本語プレゼンテーション大会や文化祭を、生徒会の生徒を中心に主体的に行うことができた。	
	③全教科で授業アンケートを実施し、授業改善を推進し、教員の資質・指導力を向上させます。	施策Ⅳ-26		①9月実施の全学年対象進路ガイダンスに加え、7月実施の2、4年生対象ライブプラン講座や9月実施の4年生対象面接指導といった、各学年における進路への意識段階によって指導できるように、適切な時期や対象を組み合わせるキャリア教育を実施した。 ②今年度も外部機関と連携した進路ガイダンス、企業説明会、進路決定者から下級生への助言等の進路行事を実施している。 ③今年度も第9回校内日本語プレゼンテーション大会を「日本国内のおすすめ観光スポットの紹介」という発表テーマで令和7年9月9日に実施した。 ④校内漢字検定を実施し、各自の目標に向かって取り組ませている。		今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取り組みについて、それぞれの目標が生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの全ての項目に関連する項目の達成度の指標において70％の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応もよかったといった意見があり、講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができたのではないかと課題としては、1、2年生に対する進路選択のための情報提供の方法や、職業について考えるきっかけになるような情報提供の機会を一層充実させていきたい。	
	④外国人児童生徒適応指導員の支援を活用し、言語面から学力の向上を支援します。	施策Ⅳ-22		①ホームページに部活動の大会結果を迅速に掲載することができた。 ②5月の総会は授業参観と組み合わせて実施した。年2回の保護者懇談会では、通訳だけでなくキャリアプランナーも同席して懇談を実施した。加茂高どりに定時制のページをいただいて様子を伝えた。 ③学校説明会やオープンキャンパスで各種行事や学校の様子について紹介した。 ④週2回の連絡会、グループウェアの活用による業務の効率化、情報の共有を行った。		コロナ以降初めて学校祭の保護者参観を実施し、授業とはまた違った生徒たちの様子を保護者の方に見ていただくことができた。その際、すぐるのアンケート機能を活用した。 アンケート結果ではH.P.などを活用した情報発信について保護者の81.4％、生徒の77.6％が肯定的に答えているが、他の項目に比べると低い。生徒の取組をH.P.で知らせることで学校の様子を地域に知らせていく必要がある。また、生徒のICT活用と並行して職員も業務の効率化に努めていけるとよい。	
生徒指導	①不登校の支援に対応し、安心できる学校環境、雰囲気づくりを推進するとともに、スクールカウンセラーなどの外部の専門家を活用した教育相談の更なる充実を図り、相談しやすい窓口を提供することで早期発見、早期対応を推進します。	施策Ⅰ-3	・学校評価アンケートや講話後のアンケートで該当項目について良い評価が70％を達成できたか。	①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。	B	・スペシャルサポート事業によるSCの相談会を追加で実施し、より多くの生徒の話を聞くことができた。 ・保健講話(6/2)、闇バイト・薬物・情報モラル講話(7/4)、SOSの出し方に関する教育(7/18)を実施し、夏季休業中に起こると危惧される問題に備えた。 ・三者懇談会時には、学校評価アンケートを実施し、保護者、、生徒共に全ての項目で75％以上の支持が頂けた。 ・日本語プレゼンテーション大会や文化祭を、生徒会の生徒を中心に主体的に行うことができた。	B
	②心身の健康管理を自ら適切に行うことができるよう、保健体育の授業に加え、夏季休業前の外部機関との連携による保健指導を行います。	施策Ⅲ-19		①9月実施の全学年対象進路ガイダンスに加え、7月実施の2、4年生対象ライブプラン講座や9月実施の4年生対象面接指導といった、各学年における進路への意識段階によって指導できるように、適切な時期や対象を組み合わせるキャリア教育を実施した。 ②今年度も外部機関と連携した進路ガイダンス、企業説明会、進路決定者から下級生への助言等の進路行事を実施している。 ③今年度も第9回校内日本語プレゼンテーション大会を「日本国内のおすすめ観光スポットの紹介」という発表テーマで令和7年9月9日に実施した。 ④校内漢字検定を実施し、各自の目標に向かって取り組ませている。		今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取り組みについて、それぞれの目標が生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの全ての項目に関連する項目の達成度の指標において70％の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応もよかったといった意見があり、講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができたのではないかと課題としては、1、2年生に対する進路選択のための情報提供の方法や、職業について考えるきっかけになるような情報提供の機会を一層充実させていきたい。	
	③個人懇談と保護者懇談を年間計6回実施し、生徒理解に努めます。	施策Ⅰ-3		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		・スペシャルサポート事業によるSCの相談会を追加で実施し、より多くの生徒の話を聞くことができた。 ・保健講話(6/2)、闇バイト・薬物・情報モラル講話(7/4)、SOSの出し方に関する教育(7/18)を実施し、夏季休業中に起こると危惧される問題に備えた。 ・三者懇談会時には、学校評価アンケートを実施し、保護者、、生徒共に全ての項目で75％以上の支持が頂けた。 ・日本語プレゼンテーション大会や文化祭を、生徒会の生徒を中心に主体的に行うことができた。	
	④学校行事や部活動を通して、協調性や公共心を育成します。コミュニケーション能力や自己表現力の育成と自己肯定感や自己有用感の育成	施策Ⅰ-1		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		・スペシャルサポート事業によるSCの相談会を追加で実施し、より多くの生徒の話を聞くことができた。 ・保健講話(6/2)、闇バイト・薬物・情報モラル講話(7/4)、SOSの出し方に関する教育(7/18)を実施し、夏季休業中に起こると危惧される問題に備えた。 ・三者懇談会時には、学校評価アンケートを実施し、保護者、、生徒共に全ての項目で75％以上の支持が頂けた。 ・日本語プレゼンテーション大会や文化祭を、生徒会の生徒を中心に主体的に行うことができた。	
進路指導	①自己の適性を見極め、適切な進路実現を達成できるよう、各学年の意識段階に合わせたキャリア教育を実施します。	施策Ⅱ-13	・学校評価アンケートで該当項目について良い評価が70％を達成できたか。	①9月実施の全学年対象進路ガイダンスに加え、7月実施の2、4年生対象ライブプラン講座や9月実施の4年生対象面接指導といった、各学年における進路への意識段階によって指導できるように、適切な時期や対象を組み合わせるキャリア教育を実施した。 ②今年度も外部機関と連携した進路ガイダンス、企業説明会、進路決定者から下級生への助言等の進路行事を実施している。 ③今年度も第9回校内日本語プレゼンテーション大会を「日本国内のおすすめ観光スポットの紹介」という発表テーマで令和7年9月9日に実施した。 ④校内漢字検定を実施し、各自の目標に向かって取り組ませている。	B	今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取り組みについて、それぞれの目標が生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの全ての項目に関連する項目の達成度の指標において70％の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応もよかったといった意見があり、講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができたのではないかと課題としては、1、2年生に対する進路選択のための情報提供の方法や、職業について考えるきっかけになるような情報提供の機会を一層充実させていきたい。	B
	②健全な職業観を育成するため、外部機関と連携した進路ガイダンス、企業訪問、卒業生や進路決定者から下級生への助言等を通して、情報収集の機会を充実させます。	施策Ⅱ-13		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取り組みについて、それぞれの目標が生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの全ての項目に関連する項目の達成度の指標において70％の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応もよかったといった意見があり、講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができたのではないかと課題としては、1、2年生に対する進路選択のための情報提供の方法や、職業について考えるきっかけになるような情報提供の機会を一層充実させていきたい。	
	③グループ対抗の校内日本語プレゼンテーション大会を実施し、調整力や発信力を養います。	施策Ⅳ-22		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取り組みについて、それぞれの目標が生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの全ての項目に関連する項目の達成度の指標において70％の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応もよかったといった意見があり、講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができたのではないかと課題としては、1、2年生に対する進路選択のための情報提供の方法や、職業について考えるきっかけになるような情報提供の機会を一層充実させていきたい。	
	④外国籍生徒の日本語検定合格を支援し、検定や資格の取得を進学や就職に生かします。	施策Ⅳ-22		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取り組みについて、それぞれの目標が生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの全ての項目に関連する項目の達成度の指標において70％の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応もよかったといった意見があり、講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができたのではないかと課題としては、1、2年生に対する進路選択のための情報提供の方法や、職業について考えるきっかけになるような情報提供の機会を一層充実させていきたい。	
学校経営	①地域社会にHPなどを活用して情報発信します。	施策Ⅳ-20	・学校評価アンケートで該当項目について良い評価が70％を達成できたか。 ・学校公開日、学校説明会の参加者が増加したか。 ・職員の月残業時間は45時間以内であったか。	①ホームページに部活動の大会結果を迅速に掲載することができた。 ②5月の総会は授業参観と組み合わせて実施した。年2回の保護者懇談会では、通訳だけでなくキャリアプランナーも同席して懇談を実施した。加茂高どりに定時制のページをいただいて様子を伝えた。 ③学校説明会やオープンキャンパスで各種行事や学校の様子について紹介した。 ④週2回の連絡会、グループウェアの活用による業務の効率化、情報の共有を行った。	B	コロナ以降初めて学校祭の保護者参観を実施し、授業とはまた違った生徒たちの様子を保護者の方に見ていただくことができた。その際、すぐるのアンケート機能を活用した。 アンケート結果ではH.P.などを活用した情報発信について保護者の81.4％、生徒の77.6％が肯定的に答えているが、他の項目に比べると低い。生徒の取組をH.P.で知らせることで学校の様子を地域に知らせていく必要がある。また、生徒のICT活用と並行して職員も業務の効率化に努めていけるとよい。	B
	②保護者との連携を強化するために、振興会総会や保護者懇談会の実施に加えて、多言語での一斉配信メール（すぐる）配信や、年3回の加茂高だよりの発行による情報発信をします。	施策Ⅳ-22		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		コロナ以降初めて学校祭の保護者参観を実施し、授業とはまた違った生徒たちの様子を保護者の方に見ていただくことができた。その際、すぐるのアンケート機能を活用した。 アンケート結果ではH.P.などを活用した情報発信について保護者の81.4％、生徒の77.6％が肯定的に答えているが、他の項目に比べると低い。生徒の取組をH.P.で知らせることで学校の様子を地域に知らせていく必要がある。また、生徒のICT活用と並行して職員も業務の効率化に努めていけるとよい。	
	③校内日本語プレゼンテーション大会などを学校説明会やHPを通じて紹介し、地域の方々に学校の様子を知る機会を増やすことで、本校教育活動の理解とPRにつなげます。	施策Ⅳ-20		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		コロナ以降初めて学校祭の保護者参観を実施し、授業とはまた違った生徒たちの様子を保護者の方に見ていただくことができた。その際、すぐるのアンケート機能を活用した。 アンケート結果ではH.P.などを活用した情報発信について保護者の81.4％、生徒の77.6％が肯定的に答えているが、他の項目に比べると低い。生徒の取組をH.P.で知らせることで学校の様子を地域に知らせていく必要がある。また、生徒のICT活用と並行して職員も業務の効率化に努めていけるとよい。	
	④積極的な職員間連携を通して、職務の効率化を図ります。	施策Ⅳ-27		①HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部SCと連携した教育相談。 スペシャルサポート事業により、追加でSCの相談会を実施した。 ②・講話の充実 6・7月に該当講話とSOS教育を実施した。 ③懇談会の充実 予定通り年間6回の懇談会を実施した。 ④学校行事、部活動の充実 バス部、バド部が全国大会に出場した。		コロナ以降初めて学校祭の保護者参観を実施し、授業とはまた違った生徒たちの様子を保護者の方に見ていただくことができた。その際、すぐるのアンケート機能を活用した。 アンケート結果ではH.P.などを活用した情報発信について保護者の81.4％、生徒の77.6％が肯定的に答えているが、他の項目に比べると低い。生徒の取組をH.P.で知らせることで学校の様子を地域に知らせていく必要がある。また、生徒のICT活用と並行して職員も業務の効率化に努めていけるとよい。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年2月3日

学校関係者評価

実施日：令和8年2月3日

・引き続き授業改善に努めるとともに、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導の充実を図る。 ・タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した授業を、すべての教科において実施できる体制を整える。 ・生徒の悩み事が、家庭に起因する事案が増えているので、教育相談の充実と共に外部機関との連携を更に深めていきたい。 ・今年度引き続き、ホームページの更新頻度を上げて進路行事の予定を公開していく。 ・進路ガイダンスの実施時期や回数、対象学年を見直すなどの進路情報の提供機会を増やす。 ・生徒のBYOD化が本格実施される年度となるため、職員も一層のICT機器活用に努める。	・定時制も全日制と同じく、日本語プレゼンテーション大会等の探究活動を通して互いに学びあい、高めあっていることがよく分かった。 ・在学中は与えられたことを頑張っても、卒業後の展望がないと行き詰ることがあるので、進路ガイダンスなどを通じて、勤労観の育成にはこれからも力を入れてほしい。 ・定期的なカウンセリングだけでなくスペシャルサポート事業など外部の力も活用して生徒をよく支援している。 ・卒業後にサポートがなくても自立した生活ができるような支援をしていくとよい。
---	--